

NUKUMORI

ぬくもり

No.65
2021.12.1発行



当院に飛来したアサギマダラ

基本理念

地域医療への貢献
「肌のぬくもりある医療」の実践

基本方針

- 一、救急医療充実のため、診療連携の強化に努めます。
- 一、高度医療の実施、チーム医療の推進に努めます。
- 一、患者様の立場にたった医療サービスの提供に努めます。
- 一、職員が働きやすく、誇りを持てる病院を目指します。

肌のぬくもりある医療



日本医療機能評価機構

宇佐高田医師会病院

〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐635
TEL.0978-37-2300(代) FAX.0978-37-2307
<http://www.utihp.jp/>

CONTENTS

創立40周年特集	2
北部地域看護連携強化フォーラムで発表	6
一般撮影装置システムをリニューアル	7
医療安全管理対策委員会研修会	7
発熱外来統計表	7
外来担当医師一覧表	8



災害派遣医療チーム「DMAT」とは？

災害派遣医療チーム「DMAT（ディーマット）」とは、大地震や航空機・列車事故などの災害時に被災地に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームです。災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）の頭文字をとって「DMAT」と呼ばれています。



平成20年4月、大分DMAT指定病院として認可を頂きました。

現在、日本DMAT（大分DMAT含む）隊員は、医師3名・看護師3名・業務調整員2名、大分DMAT隊員のみは、医師1名・看護師2名・業務調整員3名の14名が訓練・研修を受講し、認定証取得、災害派遣要員として活躍しています。

◀平成20年4月 広瀬知事より指定証を受け取る柏木院長

第二種感染症指定医療機関とは？

二類感染症は・・・！

【法】急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウイルスに限る）、結核、鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清型がH5N1であるものに限る。「鳥インフルエンザ（H5N1）」という。）

感染力と罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点から見た危険性に応じて分類される。

対人：入院（都道府県知事が必要と認めた時）、対物：消毒等の措置

平成13年4月、第二種感染症指定医療機関として、陰圧装置が設備されている4床が増設されました。県北地域は当院の4床のみです。

平成27年4月、感染管理認定看護師採用、「感染管理加算1」施設基準を取得。地域の施設とのカンファレンスを開催し、感染管理の質の向上に努めています。新型コロナウイルス（COVID-19）の感染防止対策やワクチン接種に重要な業務を担っています。



災害・救急・DMAT・感染等

2013 (平成25年)

10月

出前授業 (西部中学校)
命の授業 (命と看護)



11月

平成25年度大分県北部地区総合防災訓練 (宇佐市総合運動公園)
平成25年度集団救急事故訓練 (別府国際観光港)



2011 (平成23年)

1月

新型インフルエンザ発熱外来訓練



4月

東日本大震災 (宮城県気仙沼市)
災害支援ナース活動



11月

平成23年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練 (宮崎市)
平成23年度第2回九州・沖縄DMAT技能維持研修 (福岡市)



2014 (平成26年)

6月

平成26年度地域新人看護職救急・災害教育研修



8月

平成26年度広域医療搬送訓練
(大分空港・大分スポーツ公園)



2012 (平成24年)

9月

出前授業 (駅川中学校)
命の授業



2017 (平成29年)

3月

新型インフルエンザ対応訓練
(大分県北部保健所・宇佐市消防本部)



6月

平成29年度地域新人看護職救急・災害教育研修

7月

大規模地震時医療活動DMAT訓練 (訓練参加病院 全国330病院)



7・8月

九州豪雨災害活動 災害支援ナース活動 2名 (7/13~7/15)
DMAT隊員ロジスティクス 2名
日田市避難所

2015 (平成27年)

1月

大分ACLSトレーニングサイト
BLSコース



5月

救急・災害教育研修



9月

平成27年度大分DMAT研修 (大分市)



2018 (平成30年)

5・9月

ICLSインストラクターによるBLS救急訓練

6月

第22回日本救急医学会
九州地方会発表 (演題:ICLSの取り組み)



看護出前授業

トリアージ・心臓マッサージ講習
(耶馬溪中学校)



平成30年度地域新人看護職
救急・災害教育研修

7月

ICLSインストラクターによる地域の小学校での救命実技講習
(駅館小学校)



8月

大規模地震時医療活動訓練



2016 (平成28年)

1月

日本救急医学会ICLS認定コース (宇佐高田医師会病院ICLS)



5・6月

熊本・大分地震災害支援ナース活動 4名
阿蘇市農村環境改善センター 2名
西原村構造改善センター 2名

6月

平成28年度地域新人看護職
救急・災害教育研修



2020(令和2年)

9月

宇佐市消防本部との合同訓練
リンクット使用



12月

避難訓練



2019(平成31年・令和元年)

2月

病院避難訓練



今年度の院内研修・訓練の一覧表

	内 容
4月・5月	災害直後の患者搬送(車椅子移動等)新採用者・事務職員
6月	災害時の記録の書き方(クロノロについて)
7月	災害対策本部立上げ(机上訓練)講師 石井圭亮先生
8月	衛星電話の使用方法について
9月	トリアージ(宇佐消防署との合同訓練)
10月	ICLS
11月	EMISの入力訓練

6月

平成31年度地域新人看護職救急・災害教育研修

7月

救命実技講習(豊川・駅館小学校)



9月

新型インフルエンザ対応訓練
(宇佐市・豊後高田市合同)



救命実技講習(真玉中学校)



宇佐市消防本部との救急医療合同訓練
(DMAT出動・トリアージ研修)

救急ボイストラ使用



2021(令和3年)

3月

宇佐市と救急ワークステーションの協定を締結



DMAT出動件数(2011年~2021年)

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
0	0	0	2	4	4	6	2	2	1	1

令和3年度北部地域看護連携強化フォーラム ～コロナ禍における看護職の活動～：Web上で開催



テーマ：新型コロナウイルス陽性者受け入れ病院の立場から
～感染管理と患者に寄り添った看護の両立～

令和3年10月5日（火）

発表者：本多 千賀 病棟看護課長

はじめに

当院は第2種感染症指定医療機関であり、陰圧設備装置4室（4床）がある。2019年末より新型コロナウイルス感染者が発生し、大分県県北でも徐々に陽性者がみられ、2020年4月より初めて陽性者の受入れをした。2021年1月、第3波の時期に感染病床拡大要請により、2病棟あるうち1病棟を30床の重点医療機関感染病棟としての稼働を開始。

アンケートにより18人の看護師で感染病棟業務を開始した。稼働中の行動制限も加わり、初めて経験する期限のない日々、防護服装着での看護・ケア、長期化する中でスタッフの精神的不安、肉体的限界、業務内容や働き方・感染予防等の取り組みを振り返った。

期間：2021年1月18日～3月10日

病棟の体制（環境）：防護服着用（以後PPEとする）

1, 陰圧室 4床・一般個室 5床・3～4人部屋 8室・浴室付個室 1室（浴室として使用）

P P E：N95マスク・キャップ・防護服・

二重手袋・フェイスシールド装着

2, 病棟内ゾーニング ゴミ箱：全てをペール缶

*0.05%次亜塩素酸ナトリウム液を使用

グリーンゾーン	ナースステーション 看護師休憩室 談話室		
イエローゾーン	廊下	レッドゾーン	病室
	内 容		消毒方法
病室内の清掃	トイレ・洗面所・廊下・手すり		* 拭き上げ 2回 / 1日 ベッドマットは専用ビニール袋に入れ、2週間後業者
退院後の清掃	接する壁 ベッド・床頭台・ソファ ドアノブ等		
リネン類	シーツ・掛布・枕カバー等		* 30分浸漬後 洗濯→乾燥→業者 現在は、水溶性リネンパックに入れ、更に専用のビニール袋に入れ72時間後業者

看護の実際（身体的ケア）：自立している患者は、
検温・食事・保清は自力で行ってもらう

*入浴やシャワーは、浴室付の個室を利用

*食器は全部ディスポ

*介助を要する高齢者は、全面介助（食事介助・ポータブルトイレ介助・おむつ交換等）整容・清拭・洗髪・陰洗の計画実施

3, 病棟の体制 人員 2～3交代制、夜勤者3名
日勤者3～5名 看護補助者なし

経過とまとめ

接触感染防止を視野に入れての看護のため、患者とは最低限度の接触とし「検温」「食事の配膳・下膳」等は、自力で行ってもらい報告のみとした。

入院期間は10～15日、肺炎症状があれば1か月以上となり、患者自身も行動制限され、閉塞感のある入院生活になった。新たにコロナ感染患者用の「入院生活の過ごし方」のパンフレットを急遽作成、入院時に丁寧な説明を行い協力が頂けるように配慮した。①ナースコールは明るい声で、すぐの対応を心掛け、②家族からの差入れはスムーズに行い、③リモート面会の積極的な調整等も心掛ける事で、患者に少しでも寄り添えるよう工夫、看護計画を立案し、メンタルケアを重要視した。看護師は、常にPPE状態で接触感染予防のためとは言え、表情が分かりにくく、接触が少ないため、本来の看護業務が発揮できないことのジレンマを感じた。経験したことのない制限されたケアを手探りの状況で、感染管理認定看護師の指導の下、感染拡大防止と患者に寄り添う看護に前向きに取り組んだ。しかし、感染管理と看護の深さを改めて痛感し、両立の重さが課題として残った。期間中スタッフ1名が感染、その後の感染者が出ず、完治後感染病棟に復帰した。

3月16日解除、感染症拡大により4月28日からは、30床を36床に増床し稼働している。
早くの終息を願ってやまない。

※10月25日解除・通常入院となる。



一般撮影装置システムをリニューアル

9月に一般撮影装置システムをリニューアルしました。

以前の装置は1999年に設置し、約22年間、大きなトラブルもなく、患者様のために頑張ってくれました。

今回導入した新システムには、患者様に優しい機能が追加されています。

まずは、被ばく線量の大幅な軽減です。元々他のX線装置に比べて被ばく線量は少ないのですが、新システムでは最大50%線量を下げることができます。少ない被ばくで今まで以上にきれいな画像が得られます。



更に、以前は一般撮影室以外の場所で撮影はできても、画像の確認は一般撮影室でしかできませんでした。新システムでは、救急外来、手術室等の撮影場所で直ぐに画像の確認ができ、迅速な処置に役立てることができます。患者様に来て頂くのではなく、患者様のもとに行って検査を行うことができます。

患者様が安心して検査が受けられ、診断のお役に立てるよう、新システムを駆使して診療放射線技師一同、頑張りたいと思います。

医療安全管理対策委員会研修会

9月13日（月）・10月8日（金）、病院内における緊急時の対応について、医療安全管理対策委員会主催の研修会を行いました。

宇佐警察署 生活安全課 豊岡 広隆警部補より、防犯対策、不審者・侵入者への対応の仕方、刺股や盾の使用方法など、実演を交え分かりやすくご講義頂きました。

今後も防犯設備の整備や定期的な訓練など、防犯に対する取り組みを継続すると共に、緊急時には、学んだことを活かし、迅速かつ適切な対応ができるよう取り組んで参ります。



新型コロナウイルス 発熱外来統計表 (開始日: 令和2年10月2日)

今後も感染防止対策を徹底し、安心・安全な医療を提供できるよう尽力して参ります。

病院長 柏木 孝仁



	令和2年 10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
件数	58	73	185	199	77	77	88	191	155	50	375	142	28	1,698

1日平均: 4.3件 最大値: 45件

外来担当医師一覧表

時間帯	科 別	月	火	水	木	金	土
午 前	循 環 器	齋 藤 陣 林	篠 原	齋 藤 陣林(バスメーカ-)	矢 野	陣 林	—
	外 科	村 上	柏 木	蔵 田	江 上	柏 木	—
	消 化 器	成 安	岡 嶋	岡 嶋	岡 嶋	成 安	—
	呼 吸 器	担当医	—	藤島(第2・第4)	—	緒 方	—
午 後	循 環 器	—	—	—	近 藤 (心カテ検査)	—	—
	外 科	—	—	—	(乳腺検査)	—	—
	腎 臓 内 科	宗像(第2・第4)	—	—	—	有馬(第1・第3)	—
	血 液 内 科	—	—	—	幸野(第3)	中山(第2・第4)	—

	氏 名	専 門 領 域
循環器科	陣林 伯男	循環器 内科一般
	矢野 雄大	循環器 内科一般
	近藤 克洋(非常勤)	循環器科一般
	篠原 徹二(非常勤)	循環器 内科一般
	齋藤聖多郎(非常勤)	循環器 内科一般
消化器科	岡嶋 智也	消化器科一般
	成安 起彦	消化器科一般
腎臓内科	有馬 誠(非常勤)	腎臓内科一般
	宗像さやか(非常勤)	腎臓内科一般

	氏 名	専 門 領 域
外科	柏木 孝仁	消化器外科 下肢静脈瘤 外科一般
	村上 光彦	消化器外科 外科一般
	江上 拓哉	消化器外科 外科一般
	蔵田 伸明	消化器外科 外科一般
	藤島 宣大(非常勤)	呼吸器内科
呼吸器科	緒方 敦子(非常勤)	呼吸器内科
血液内科	中山 俊之(非常勤)	血液内科 内科一般
	幸野 和洋(非常勤)	血液内科 内科一般

●外来受付時間

午前8:30～11:00(午後の特殊外来は、午後3:00まで受付)
予約の患者様が優先になります。ただし、急患はこの限りではありません。
※当病院は、原則として紹介状が必要です。

●診療時間

午前9:00～12:00/午後1:00～4:00

●休診日

土曜日午後、日曜日、祝日、年末年始(12/30～1/3)

●予約受付時間

平日 午後2:00～5:00

編集後記

4月に患者様よりフジバカマの苗木を寄付して頂きました。当院の敷地内にある椎根津彦神社の石碑の側に植えると、10月中旬に見事に満開になりました。

10月23日(土)昼頃、そのフジバカマに、1頭のアサギマダラが飛来しているのを見つけました。表紙はその様子です。

アサギマダラは1,000km以上も海を越えて旅をする渡り蝶で姫島が有名です。来年はより多くの飛来を期待しています。

寄付して頂いた患者様には感謝の気持ちで一杯です。

ぬくもり No.65 2021年12月1日発行

宇佐高田医師会病院

〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐635
TEL 0978-37-2300(代) FAX 0978-37-2307

ホームページ <http://www.utihp.jp/>

これまでの広報誌「ぬくもり」もホームページで閲覧できます。



- 地域医療支援病院
- (財)日本医療機能評価機構認定
(機能種別版評価項目3rdG:Ver.2.0)
- 第2次救急指定医療機関・災害拠点病院(大分DMAT指定病院)
- 僻地医療拠点病院・大分県HIV診療協力病院
- 第2種感染症指定医療機関(SARS初療機関)
- 大分県重症難病患者医療ネットワーク基幹協力病院
- 協力型臨床研修病院・循環器専門医研修関連施設
- NST稼働施設認定病院
- 日本消化管学会胃腸科指導施設
- 肝疾患診療協力医療機関